

流山九条ニュース

「九条の会・流山」事務局

山田 7144-3993 石林 7154-7511

三原 7152-6559

2012.4.1 NO.73



「九条の会・流山」HP: <http://www.nagareyama9.org/>

メール: info@nagareyama9.org

流山憲法集会 2012

日時: 5月19日(土) 13:30 開場 14:00 開会

会場: 南流山センター

講演: 鎌田 慧(さとし)さん



ポスター・チラシができました。ご協力を!

自宅も含めポスター掲示できる場所があったら教えてください。

自宅周辺などチラシ配布

可能な方はお知らせ下さい。お届けします。

労働者の被曝に支えられる原発

鎌田 慧 月刊「記録」から

3月24日、3人の労働者が高濃度に汚染された地下水の中で作業していて、水たまりで被曝したと報じられた。長靴を履かされていなかった。原発は労働者の被曝によって成立している産業である。事故があってもなくても、定期点検や炉心のメンテナンスなどで、大量の労働者が被曝していく。原発イコール被曝なのだ。被曝が原因でガンや白血病などに冒され、病気に斃れたり、死んでいった人たちの遺族が、たまに裁判を起こすが、因果関係がハッキリしない、と拒絶され、労災の認定すらされない。63年から原子力発電がおこなわれているのに、労災認定されたのは、これまで10人程度という少なさである。

原発の労働環境は、きわめて差別的なことで知られている。東京電力のエリート社員がいて、その下にIHIや東芝などのプラントメーカーが控える。その下の「協力会社」の労働者たちが、危険な末端仕事をすべて請け負っている。

震災での被曝では、アラームが鳴ったのに、故障だと思って仕事をつづけていたとして問題になった。しかしアラームを無視するのは日常茶飯事である。個人線量計を付けていたら仕事にならないからと外

す人も少なくない。だからこそ、人数分の線量計が揃っていなくても問題にはならなかったのである。

たまたま事故があったから記事になったが、原発の労働者はそうした劣悪な労働環境にずっと置かれてきた。そのあまりのひどさに、原発を辞めたあと、反対運動をはじめの人ができるようになって、内部の労働者の状況が少しずつわかるようになってきた。

かつては名簿にない労働者が働いていたり、名前を変えて被曝線量に関係なく働いたり、健康管理の甘さがなん度も問題になっている。原発労働者は被曝線量が多くなって管理区域内に入れなくなれば仕事を失う。だから生活のために被曝を許容してきた。福島で労働者の被曝の上限を100ミリシーベルトから250ミリシーベルトにいきなり引き上げた。前は危険だといっておいて、今度は許容する。生身の人間が被曝する、という生命の重みがいっさい感じられない数字の操作だ。

労働者の被曝線量を調べると、社員の数値が減っているのがわかる。また被曝労働者はどんどん増えている。これは老朽化にともなう大型機器の交換やひび割れの検査、ボルト替えなどが、頻繁におこなわれているからだ。

山本太郎は仕事も恋人も失って

「脱原発に彼女は引き込めない」J-CASTのニュースより

福島原発事故以来、脱原発活動に積極的に参加している俳優



優の山本太郎さんの本「ひとり舞台 脱原発 闘う役者の真実」(集英社)が発売。

「脱原発」を表明してからはドラマを降板させられたり、所属事務所を辞めたりと俳優業に影響が出ていたが、恋人まで失っていた。生い立ちやなぜ脱原発活動をするに至ったか、などとともに恋人のことも語る。脱原発の活動を始めた時に「これからは仕事も少なくなると思う」と話したら、自分が働いて食べさせるとまで言ってくれたが、「それはそれで辛いと思う自分がいて...」。結婚も考えていたが、これ以上彼女を脱原発の活動に引き込むことは無理だと思い、別れを告げたという。そのほか、一緒にご飯を食べたり飲みに行ったりしていたのに急に冷たくなったり距離を取ったりするようになった女優もいる。

